

日本史演習6B－I

科目ナンバリング SEM-311
選択必修 2単位

山下 須美礼

1. 授業の概要(ねらい)

江戸後期から明治初期のさまざまな歴史的事項に関するテーマ(教員が提示)を受講者で分担し、担当者はそれに関する書籍・論文・史料等を徹底的に調査し、まとめて発表する。発表の準備を通して参考文献や論文の探し方、史料の扱い方や読解方法を学ぶ。また、それぞれの時代背景についての理解を深め、政治状況・社会情勢等との連関についても考察する。発表担当以外の受講者は、毎回のテーマについて予習し、積極的に議論に加わる。

2. 授業の到達目標

- ・近世史料の読解力や分析力を身につけ、その歴史的価値を理解できるようになる。
- ・文献や史料の探索、読解、分析を通して、歴史学の方法論を修得する。

3. 成績評価の方法および基準

- ①発表担当の際の準備度合いおよびその発表内容(50%)
- ②毎回の発表に対する質疑等による参加度(25%)
- ③前期末のレポート(25%)

4. 教科書・参考文献

参考文献

藤田覚 日本の時代史 17 近代の胎動 吉川弘文館
井上勲 日本の時代史 20 開国と幕末の動乱 吉川弘文館
平川新 全集 日本の歴史 第12巻 開国への道 小学館
田中彰 日本の歴史⑮ 開国と倒幕 集英社

5. 準備学修の内容

- ・発表者は、事前に発表テーマに関わるキーワードや参考文献を他の受講者に提示する。
- ・発表者以外の受講者は、提示されたキーワードや参考文献を手がかりとして、各回の発表テーマについて予習を行い、疑問点や論点をまとめておく。

6. その他履修上の注意事項

- ・毎回の予習は必須である。
- ・各回のテーマについて、基礎的な情報などを調べた上で授業に出席すること。
- ・議論への参加も必須。

7. 授業内容

- 【第1回】 授業の内容・進め方・評価等についてのガイダンス／テーマの紹介
- 【第2回】 担当テーマと発表順番の決定／先行研究の探索・読解とその利用について
- 【第3回】 史料の読解とその扱い方について(オンライン)
- 【第4回】 各自のテーマに関する史料・先行研究・参考文献等についての報告①
- 【第5回】 各自のテーマに関する史料・先行研究・参考文献等についての報告②
- 【第6回】 相互のテーマについての意見交換
- 【第7回】 発表と質疑応答①
- 【第8回】 発表と質疑応答②
- 【第9回】 発表と質疑応答③
- 【第10回】 発表と質疑応答④
- 【第11回】 発表と質疑応答⑤
- 【第12回】 発表と質疑応答⑥
- 【第13回】 発表と質疑応答⑦
- 【第14回】 発表と質疑応答⑧
- 【第15回】 授業のまとめ／後期の各自のテーマについて／レポートについて